

○前田華郎 (前田総合医学研究所)

(目的) 現代医療では、ガンを肉眼で捕らえ、これを映像から消滅させることをガン治療の目的としている。したがってガンがどの時点から自然消滅するのかその限界が不明なため、不必要な処置が施されている場合が多い。一方、ガンのエネルギー(波動)から見たガンの治療方針は、ガンの波動の強さを観察してガンを診断し、この波動がゼロになったときからガンは徐々に消滅していく。その時点では未だガンの形は存在してもそれは抜け殻に等しい。ガンの波動ゼロの意味するものを立証したい。

(方法) 演者が行なっているガンの波動測定は0—リングテスト(大村恵昭教授の発見による)によって行なわれる。ガンが存在すれば、その最寄りの皮膚領域に必ずガンの波動がキャッチされる。その波動をゼロにするような機能性食品やそれを患部に集中させる方法(これも大村恵昭教授の発見による)と局所用の経皮的遠赤外線加温器の使用、それに加えて病気の原因となった因子の指摘を行なう。更に血流改善と体温の低下を抑えて、免疫力を高める方法などを指導している。ガンの波動がゼロとなっても定期的に厳重な経過観察を行なっている。

(成績) 平成11年8月より一年間にガンの波動がゼロに転じた症例22名の概略を紹介をする。そのうち手術等現代医療を全く受けていない症例は15名で、ガンの波動がゼロに転じた日数は4日から6か月であった。今回はこの15名の中から、S字状結腸ガンや6例全例が治癒した前立腺ガン(D1も含む)、咽頭ガン、転移ガン等について発表する。

(結論) ガンの波動がゼロに転じた時点からは、例え腫瘍が存在しても患者に不必要な手術や放射線、抗ガン剤などを投与する必要はなく、肉体的、精神的経済的負担をかけないで済む可能性を示唆するものである。